

第15章 福島県立美術館

第1節 概要

1984年に開館した福島県立美術館は、さまざまなテーマに基づく展覧会、創作や芸術鑑賞のための各種講座等の事業を実施している。また、文化財としての美術作品の収集保存、美術や地域の芸術運動に関する調査研究を継続的に実施している。これらの活動を基盤に、美術の情報センターとしての機能を担っている。

当年度の美術館活動の概要は以下のとおりである。

1 美術館運営協議会

(1) 委員

- 山口 功 福島県中学校教育研究会美術専門部
(平成 25.1.1 ~)
- 番匠あつみ 福島県高等学校教育研究会美術工芸部会会員
(平成 27.1.1 ~)
- 遠藤俊博 公益財団法人福島県文化振興財団理事長
(平成 25.1.1 ~)
- 坂本節子 福島県家庭教育インストラクターいわきの会事務局長
(平成 25.1.1 ~)
- 酒井昌之 福島県美術協会会長
(平成 19.1.1 ~)
- 高橋 聡 日本放送協会福島放送局長
(平成 25.1.1 ~)
- 星眞智子 西会津国際芸術村事務長
(平成 27.1.1 ~)
- 清水眞砂 世田谷美術館学芸部長
(平成 27.1.1 ~)
- 齋藤美保子 郡山女子大学短期大学部教授
(平成 27.1.1 ~)
- 貝沼幹夫 福島県立美術館友の会副会長
(平成 25.1.1 ~)

(2) 協議会の開催

- ア 期日 平成 27 年 3 月 3 日(火)
- イ 内容 ・運営協議会会長及び副会長の選出
・平成 26 年度事業実績の概要
・平成 27 年度事業計画案の概要
・県立美術館の運営等

2 他館等との連携

県内外の博物館施設および全国組織等との連携を図り運営・事業等に関する情報交換や研修等を実施した。

- 加盟団体 ・全国美術館会議 (理事)
・日本博物館協会 (会員)
・日本博物館協会東北支部 (監事)
・東北地区博物館協会 (監事)
・福島県博物館連絡協議会 (理事)

第2節 美術品の収集・保存

優れた美術作品鑑賞の機会を提供し、文化財を保存継承するために、コレクション(収集作品)の収集活動を継続的に行っている。なお、今年度は72点の作品、および美術資料1件を寄贈により収集する予定である。

1 収集作品点数(平成 27 年 3 月 31 日現在)

海外作品	433 点	
日本画	311 点	
洋画	711 点	
版画	1,110 点	
立体	113 点	
工芸	153 点	
書	37 点	
素描・下絵	145 点	
写真	410 点	
計	3,423 点	美術資料 35 件

2 収集評価委員会

(1) 委員

- 原田 光 岩手県立美術館長
(平成 23.12.1 ~)
- 村田眞宏 愛知県美術館長
(平成 23.12.1 ~)
- 荒屋鋪透 ポーラ美術館学芸部長
(平成 23.12.1 ~)
- 三上満良 宮城県美術館副館長
(平成 23.12.1 ~)
- 佐々木吉晴 いわき市立美術館長
(平成 23.12.1 ~)

(2) 委員会の開催

- ア 期日 平成 27 年 2 月 24 日(火)
- イ 内容 ・平成 25 年度収集作品の報告
・平成 26 年度収集候補作品について

3 平成 26 年度収集作品

(1) 美術作品及び美術資料の収集

国内・日本画	小川千壺	1 点
	酒井三良	1 点
国内・洋画	小川千壺	1 点
	大内のぶ子	1 点
	織田彩子	8 点
	長谷川昇	1 点
	深沢軍治	2 点

国内・版画	大宮政郎	7点
	三瓶光夫	1点
国内・立体	佐藤朝山(玄々)	2点
国内・写真	瀬戸正人	47点
国内・資料	織田彩子・大内のぶ子関係資料1件	
		計72点 美術資料1件

(2) 図書資料の収集 (平成27年2月18日現在)

収蔵図書数 54,575冊

4 保存修復

美術品の状態を維持回復し、美術品の保管・展示の環境を良好に保つために、計画的に美術品の修復や館内の保存環境調査を実施している。

(1) 虫菌害モニタリングと環境測定の実施

ア 時期 平成26年8月22日～9月5日、
平成27年3月8日～22日の2回

イ 場所 展示室、収蔵庫、搬入口およびその他の館内

(2) 美術作品の修復

今年度は松島一郎《コック部屋》の修復・額装、速水御舟《女二題其二》の修復を実施した。

(3) 敷地内の放射線測定

ア 時期 毎月1回、計12回測定

イ 場所 美術館内および敷地内 計45か所

第3節 展示事業

1 常設展

収蔵および寄託の美術作品を展示している。美術の多様な領域や数多くの作家を紹介するとともに、作品の状態の保全に配慮して、年4回(版画は年8回)展示替えを行っている。

常設展については、より多くの県民が利用できるように、無料観覧日を設けている。

(1) コレクション展

ア コレクション展Ⅰ

(ア) 会期 平成26年4月12日(土)～6月29日(日)

(イ) 主な内容

- ・現代の日本画：横山操《黒い工場》、黒澤吉蔵《煙突》
- ・明治～大正期の洋画：関根正二《神の祈り》など
- ・佐藤朝山(玄々)の彫刻：《牛》《鳩》《冬眠》
- ・昭和の洋画：吉井忠《寓話》、中谷泰《炭鉱町》など
- ・アメリカの美術：ベン・シャーン《農民にたずねよ》
- ・フランス美術の名品：シャガール版画集《死せる魂》
- ・小特集「保田春彦と山中現」

イ コレクション展Ⅱ 開館30周年記念・コレクション名作選

(ア) 会期 平成26年7月2日(水)～9月28日(日)

(イ) 主な内容

- ・日本画：速水御舟《女二題》、池田遙邨《大漁》など
- ・彫刻：三木宗策《かやのひめの神》など
- ・洋画：関根正二《姉弟》、岸田劉生《静物》など
- ・海外の作品：ワイエス《松ぼっくり男爵》など
- ・版画：斎藤清《凝視(花)》、恩地孝四郎《母と子》など

ウ コレクション展Ⅲ

(ア) 会期 平成26年10月1日(水)～12月27日(土)

(イ) 主な内容

- ・高校生キュレーターによる小さなコレクション展
- ①ありのままの時代になるの～少しも寒くないわ～：
橋下章《武装する都市》、斎藤清《赤い実》など
- ②Your Portrait：工藤哲巳《危機の中の芸術家の肖像》、
齋藤隆《貌》など
- ③時の流れ～つながるピース広がる世界～：
田淵安一《花林朱経》、佐藤幸代《東方から》など
- ④親子で見られる現代アート：
ヤノベケンジ《ラッキードラゴン構想模型》など
- ・小特集「喜多方美術倶楽部」：酒井三良、小川芋銭など
- ・創作人形：川崎ブッペ《弦》など
- ・アメリカ、フランスの絵画：ワイエス、ピサロなど
- ・斎藤清の版画：《みろく》《障子(D)》など
- ・清宮質文と日和崎尊夫の版画

エ コレクション展Ⅳ

(ア) 会期 平成27年1月6日(火)～4月5日(日)

(イ) 主な内容

- ・没後50年 須田きょう中：《篝火》《枯山水石組》など
- ・院展の日本画：福王寺法林《バドガオンの月》など
- ・生誕100年 野地正記：《スダマティ》など
- ・100年前の関根正二：《死を思う日》《大樹》《裸婦》など
- ・河野保雄コレクション：麻生三郎、竹久夢二など
- ・海外作品：ワイエス、ベン・シャーン、ルオーなど
- ・斎藤清とエルンスト

(2) 移動美術館

当館所蔵作品の一部を、県内の文化施設で公開展示する事業で、開催館との協働でテーマ、作品選定から実務までを行う。今年度は新地町で開催した。

ア 展覧会名 「世界の名作」展

イ 会期 平成26年10月18日(土)～30日(木)

ウ 会場 新地町図書館

エ 展示作品 32点

オ 観覧料 無料

カ 観覧者数 746名(11日間、1日平均68名)

キ 関連事業

(ア) ギャラリートーク

a 日時：10月18日(土)13時30分～

講師：伊藤 匡(当館学芸課長) 参加者40名

- b 日時：10月26日(日)13時30分～
講師：伊藤 匡 (当館学芸課長) 参加者 39名

(3) 特集展示

ア 展覧会名 「瀬戸正人展 パンコク・ハノイ・福島」

会期 平成26年6月10日(火)～29日(日)
分野 写真
展示数 62点
観覧料 一般・大学生270(210)円 高校生以下無料
観覧者数 1,050名
概要

瀬戸正人(1953年タイ生まれ)は日本人の父とベトナム人の母を持ち、福島の梁川町で育った写真家である。本展では、収蔵作品に加え、古くから撮りためてきた福島の風景、震災後の福島、そして昨年発表した《Cesium-¹³⁷Cs》から展示構成。作家のアイデンティティを探る旅を追いながら、一人の写真家の眼が捉えた《福島》を辿った。

関連事業

- ・ワークショップ「福島を撮る」
日時：6月14日(土)14時～、15日(日)10時30分～
講師：瀬戸正人氏(出品作家) 参加者：18名

イ 展覧会名 「前衛美術会とその周辺」

会期 平成26年12月6日(土)～27日(日)
分野 絵画、資料
展示数 91点
観覧料 一般・大学生270(210)円 高校生以下無料
観覧者数 569名
概要

戦後まもない1947年に誕生した前衛美術会は、社会主義リアリズムに異を唱え、シュールレアリスムを通して社会や政治と芸術との関わりを考察し続けた美術家たちの集団である。当館では2012年、彼らの活動を長年紹介してきたアートギャラリー環を主宰する川妻さち子より67点の寄贈を受けた。本展ではこのコレクションをもとに、前衛美術会とその周辺の作家たちを紹介した。

関連事業

- ・ギャラリートーク
日時：12月13日(土)14時～
講師：伊藤和子氏(出品作家)、川妻さち子氏(アートギャラリー環主宰)、荒木康子(当館専門学芸員)、坂本篤史(当館学芸員) 参加者：30名

2 企画展

今年度は4回の企画展示を開催し、国内外の様々な文化を紹介した。

(1) 世界をめぐる絵本の旅 ちひろ美術館コレクション

ア 会期 平成26年4月26日(土)～6月1日(日)
イ 分野 絵画、資料
ウ 展示数 192点
エ 主催など
主催：福島県立美術館、ちひろ美術館、福島民報社、福島テレビ
共催：福島県立図書館 後援：福島市
オ 観覧料 一般・大学生800(640)円、高校生以下無料
*()内は20名以上の団体料金
カ 観覧者数：16,332名
キ 概要

世界初の絵本専門美術館として1977年に開館したちひろ美術館は、いわさきちひろ(1918-1974)をはじめとする2万6千点にのぼる世界の絵本画家たちの作品を収集展示している。この展覧会では、国際アンデルセン賞画家賞をはじめとする絵本賞作家の作品や、世代を超えて愛され続けているミリオンセラーの絵本原画など珠玉の143点と資料49点により、楽しい絵本の世界を紹介した。

ク 関連事業

- (ア) 講演会「いわさきちひろと世界の絵本画家たち」
日時：4月26日(土)14時～ 参加者：135名
講師：松本猛氏(絵本学会会長、ちひろ美術館常任顧問)
- (イ) ゲストによるギャラリートーク
日時：5月10日(土)14時～ 参加者：50名
講師：上島史子氏(ちひろ美術館学芸部長)
- (ウ) 担当学芸員によるミニツアー
 - a 日時：5月2日(金)14時～
講師：堀 宜雄(当館主任学芸員) 参加者：35名
 - b 日時：5月9日(金)14時～
講師：堀 宜雄(当館主任学芸員) 参加者：25名
 - c 日時：5月16日(金)14時～
講師：紺野朋子(当館学芸員) 参加者：40名
 - d 日時：5月23日(金)14時～
講師：紺野朋子(当館学芸員) 参加者：33名
 - e 日時：5月30日(金)14時～
講師：紺野朋子(当館学芸員) 参加者：44名
- (エ) 県立図書館司書によるおはなし会
 - a 日時：5月3日(土)14時～ 参加者：60名
 - b 日時：5月17日(土)14時～ 参加者：45名
 - c 日時：5月24日(土)14時～ 参加者：41名
- (オ) 映画会「いわさきちひろ～27歳の旅立ち」
日時：5月25日(日)14時～ 参加者：158名

(2) コレクション・ッキング 近くを見ること／遠くに想いを馳せること—対話と創造

ア 会期 平成26年7月19日(土)～9月15日(月・祝)
イ 分野 絵画、版画、彫刻、インスタレーション

ウ 展示数 90点

エ 主催など

主催：福島県立美術館

助成：芸術文化振興基金、福島県立美術館協会の

後援：福島市

協力：富三窯 佐竹敦夫、株式会社エトワール

オ 観覧料 一般・大学生 600(480)円、高校生以下無料
※()内は20名以上の団体料金

カ 観覧者数 4,278名

キ 概要

収蔵作品との対話は近代美術との対話であり、福島との対話でもある。本展では古川弓子(1975年津若松市生まれ)、three(1986年福島市生まれ)、三瓶光夫(1974年須賀川市生まれ)、高野正晃(1965年いわき市生まれ)という4組の福島県出身作家たちが作品を選び、自身の作品とコラボレーションし、ユニークな展示空間を生み出した。なお本プロジェクトは企画展、コレクション展、ワークショップ等の事業を含み、年間を通して実施された。

ク 関連事業

(ア) ワークショップ「こころの絵本をつくる」

日時：大人向け7月20日(日)10時～、

子ども向け7月21日(月・祝)10時～

講師：古川弓子氏(出品作家)

参加者：大人向け18名、子ども向け33名

(イ) ワークショップ「ぼくらのねんどじま」

日時：8月7日(木)10時～

講師：高野正晃氏(出品作家)

参加者：21名

(ウ) ワークショップ「メディウムはがし刷り版画体験」

日時：8月31日(日)10時～

講師：三瓶光夫氏(出品作家) 参加者：18名

(エ) わんぱくミュージアム「おもしろ絵画」

日時：7月27日(日)10時～15時

講師：海老塚耕一氏(多摩美術大学教授)

参加者：37名

(オ) 出品作家によるギャラリートーク

日時：7月19日(土)15時～

講師：古川弓子氏、three、三瓶光夫氏、高野正晃氏

参加者：70名

(カ) 視覚障がい者のための鑑賞ワークショップ

日時：11月24日(月・祝)10時30分～、14時～

講師：真下弥生氏(ルーテル学院大学非常勤講師)、

半田こずえ氏(明治学院大学非常勤講師)

参加者：計9名

(キ) アオウゼ×福島県立美術館連携企画

「旬の素材ブルーベリーとボストン風レシピ」

日時：6月27日(金)18時～20時30分

講師：菅野喜代治氏(ミューゼ・ドゥ・カナール)、

高橋和美氏(福島ビューホテル)、

荒木康子(当館専門学芸員) 参加者：20名

(ク) 霊山こどもの村×福島県立美術館連携企画

「みんなみんなアーティスト」

日時：11月23日(日)13時～

講師：小原風子氏(霊山こどもの村スタッフ)、

荒木康子(当館専門学芸員) 参加者：14名

(ケ) 展示「高校生キュレーターによる小さなコレクション展」

会期：平成26年10月1日(水)～12月27日(日)

会場：常設展示室A 参加者：県内高校生25名

(コ) 「ヤノベケンジさんのハッピードラゴン朗読会」

会期：平成26年11月30日(日)14時～

会場：常設展示室A

講師：高校生5名 参加者：10名

(サ) 「美術館のX'mas」

会期：平成26年12月20日(土)14時～

会場：常設展示室A、エントランスホール

講師：高校生11名 参加者：30名

(3) 小川千甕 縦横無尽に生きる

ア 会期 平成26年10月11日(土)～11月24日(日)

イ 分野 絵画、資料

ウ 展示数 145点

エ 主催など

主催：福島県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議

会、福島民友新聞社、福島中央テレビ

協賛：ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン

・日本興亜損保

協力：日本通運

オ 観覧料 一般・大学生 800(640)円、高校生 600(480)円、

小・中学生 400(320)円 ※()内は20名以上の団体料金

カ 観覧者数 2,699名

キ 概要

小川千甕(1882-1971)は、京都の古い書肆の家に生まれ、仏画師のもとに奉公、のち浅井忠に洋画を学ぶ。上京して挿絵画家として活躍、大正時代からは日本画家として、ほのぼのした田園風景を得意とした。旅を好んだ千甕は喜多方や福島、須賀川を訪れており、本県にゆかりの深い画家でもある。仏画、洋画、漫画、日本画、陶磁器など代表作145点と資料類もあわせて展示した本展は、千甕はじめての大規模回顧展となった。

ク 関連事業

(ア) 記念トーク「小川千甕の魅力を語る」

日時：10月26日(日)14時～

講師：前川公秀氏(DIC川村記念美術館顧問)、

山田敦雄氏(目黒区美術館学芸員)、

野地耕一郎氏(泉屋博古館分館長)

参加者：50名

(イ) ギャラリートーク

a 日時：10月18日(土)14時～

講師：増淵鏡子(当館主任学芸員) 参加者：5名

b 日時：11月15日(土) 14時～

講師：増渕鏡子(当館主任学芸員) 参加者：20名

(4) 飛驒の円空 千光寺とその周辺の足跡

ア 会期 平成27年1月27日(火)～4月5日(日)

イ 分野 仏像

ウ 展示数 43点

エ 主催など

主催：飛驒の円空展開催実行委員会(福島県立美術館、福島民友新聞社、飛驒千光寺)

協力：東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHK プロモーション、高山市、高山市教育委員会

後援：福島市、福島市教育委員会、福島県市長会、福島県町村会、福島県仏教会、福島県商工会議所連合会、福島県商工会連合会、福島中央テレビ、ふくしまFM、TeNY テレビ新潟、ミヤギテレビ、RAB 青森放送、テレビ岩手、ABS 秋田放送

特別協賛：こころネットグループ、JA グループ福島

協賛：富士通、(公財) JKA

オ 観覧料 一般 1,000(800)円、大学生 900(800)円、高校生以下無料 ※()内は前売および20名以上の団体料金

カ 観覧者数 35,615名

キ 概要

江戸時代前期、美濃国(現在の岐阜県)に生まれた僧、円空(1632-1695)は、近畿から北海道まで諸国を巡って造仏修行に励み、各地に5,000体以上の仏像を残している。今回は円空ゆかりの飛驒・千光寺所蔵の「両面宿難坐像」「歓喜天立像」をはじめ、岐阜県高山市所在の円空仏を展示した。なお本展は平成25年春に東京国立博物館で開催された特別展を巡回展示したものである。

ク 関連事業

(ア) 講演会「飛驒人と円空の祈り」

日時：2月8日(日) 14時～

講師：大下大圓氏(飛驒千光寺住職)

参加者：300名

(イ) 講演会「いのちを生きる円空仏」

日時：3月8日(日) 14時～

講師：大下大圓氏(飛驒千光寺住職)

参加者：300名

(ウ) 映画会「円空—今に生きる—」

日時：1月31日(土)、2月11日(水・祝)、3月15日(日)、3月24日(火) 10時30分～/14時～

参加者：計1,600名

(エ) 滝田栄氏来場記念トークショー

日時：3月3日(火) 14時～

講師：滝田 栄氏(俳優) 参加者：200名

(オ) 関連展示「円空さんに手紙を書こう 応募作品展」

展示期間：3月14日(土)～4月5日(日)

会場：美術館エントランスホール

第4節 調査研究事業

1 調査研究

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施している。

今年度は県内の美術支援者と作家との関係調査を重点的に行った。

第5節 普及事業

美術をより深く知る喜びを得る機会を提供する事業として、さまざまな講座を開催している。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、美術館への年賀状展、学校と連携しての出張実技講座を行っている。

1 館内解説

学校や公民館その他の団体での鑑賞者のために、鑑賞前に学芸員が美術館の概要、鑑賞のマナー、代表的な収蔵作品の解説、常設展示や企画展示の概要等のガイダンスを行っている。

団体総数は122団体4,055人、そのうち解説を行ったのは65団体2,547人である。

2 鑑賞講座

(1) 館長講座〈きらめきのコレクション物語〉

講師：早川博明(当館館長)

ア 「アメリカの詩—ワイエスとベン・シャーンたち」

日時：5月17日(土) 参加者：16名

イ 「斎藤清と近代版画の詩人たち」

日時：7月19日(土) 参加者：18名

ウ 「関根正二と近代美術の天才画家たち」

日時：9月20日(土) 参加者：16名

エ 「ふくしまの空 彫刻の楽園」

日時：11月15日(土) 参加者：11名

オ 「近代日本画の美—伝統と革新に生きる画家たち」

日時：1月17日(土) 参加者：11名

カ 「所蔵名品との対話：ベストセレクション20をめぐって」

日時：3月21日(土) 参加者：10名

3 実技教室

実技教室は、広く県民各層の美術に関する関心をふまえ、美術創作と鑑賞の理解を深める一助とする目的で、各種プログラムを実施している。

(1) 実技講座

ア 「色彩銅版画入門」

日時：平成25年6月14日(土)、15日(日)、21日(土)、
22日(日)、28日(土)、29日(日)

講師：馬場 章氏 (版画家、女子美術大学教授)

参加者：12名

イ 「日本画の描き方」

日時：平成25年10月25日(土)、26日(日)、11月1日(土)、
2日(日)

講師：植田一穂氏 (東京藝術大学准教授、創画会会員)

参加者：7名

ウ 「木の心、私の思い～自然木を使った木彫」

日時：平成26年2月15日(日)、22日(日)、3月1日(日)、
8日(日)、15日(日)

講師：新井 浩氏 (福島大学人間発達文化学類教授)

参加者：16名

(2) 技法講座

ア 「羊皮紙に描くヨーロッパ中世の細密画」

日時：平成25年9月21日(日)、28日(日)

講師：石原靖夫氏 (美術家) 参加者：16名

イ 「裸婦デッサン」

日時：平成25年11月22日(土)、23日(日)

講師：北折 整氏 (東北生活文化大学教授)

参加者：12名

(3) 親と子の美術教室

ア 「親子で絵本を作ろう」

日時：平成25年5月5日(月・祝)

講師：内田由紀子氏 (製本家、池袋コミュニティ・カレッジ講師) 参加者：小学生の親子8組20名

イ 「オリジナルふろしきを作って、むすび方を身につけよう」

日時：平成25年9月14日(日)

講師：よこやまいさお氏 (ふろしきライフデザイナー)

参加者：小学生の親子7組16名

ウ 「親子で楽しむ～風船を使ったキャンドル作り」

日時：平成25年12月14日(日)

講師：横島憲夫氏 (造形作家)

参加者：小学生の親子8組20名

(4) 一日創作教室

ア 「遠近法と幻想による描画を体験する」

日時：平成25年7月13日(日)

講師：久慈伸一 (当館専門学芸員) 参加者：12名

イ 「絵画やイラストを粘土で模写する～イメージの変換」

日時：平成25年12月7日(日)

講師：久慈伸一 (当館専門学芸員) 参加者：4名

(5) わんぱくミュージアム

ア 「道具を使って描く、おもしろ絵画」

日時：平成26年7月27日(日)

講師：海老塚耕一氏 (多摩美術大学教授)

参加者：37名

イ 「ねこの〈チョーちゃん〉をつくろう！」

日時：平成26年10月5日(土)

講師：國島 敏 (当館主任学芸員) 参加者：5名

ウ 「〈歩く花〉ってどんな花?～自分だけの〈〇〇花〉をつくろう！」

日時：平成27年3月22日(土)

講師：白木ゆう美 (当館学芸員) 参加者：5名

4 美術館・学校教育連携事業

(1) 学校連携共同ワークショップ

平成15年度より開催する連携事業で、こどもたちが作家と触れ合う生の機会として、作家・学校・美術館の共同による創作活動を中心とした「出張ワークショップ」を開催している。この事業により相互の協力関係を密にし、新鮮な体験を通してこどもたちの美術や美術館への関心を高めるとともに、通常は美術館を利用しにくい地域のニーズに対応を図っている。

今年度は「不思議な世界の入り口」をテーマに幼稚園・小・中・高校合わせて12校で開催した。ワークショップ作品は平成26年12月9日(火)～平成27年1月12日(月・祝)の期間、当館企画展示室A-1にて活動中のスナップ写真とあわせて展示した。

ア 「出会いの形～作ることはモノとコトと出会うこと～」

講師：酒井賢司氏 (イラストレーター、グラフィックデザイナー)

9月18日(木) 福島市立福島養護学校 (高等部) 3年生
参加者：18名

9月24日(水) 郡山市立緑ヶ丘中学校美術部1～2年生
参加者：20名

9月25日(木) 大玉村立大玉中学校美術部1～3年生
参加者：11名

9月28日(日) 県立保原高等学校美術部1～3年生
参加者：25名

10月8日(水) 学校法人まゆみ学園まゆみ幼稚園年長
参加者：26名

10月15日(水) 二本松市立はらせ幼稚園年中・年長
・親子 参加者：11組

10月29日(水) 学校法人東明幼稚園年長・親子
参加者：41組

11月18日(火) 福島市立御山小学校1年生
参加者：68名

11月18日(火) 福島市立御山小学校5年生
参加者：73名

イ 「キャラクターを創ろう！楽園の絵」

講師：鴻崎正武氏 (画家、東北芸術工科大学准教授)

10月22日(水) 大沼郡会津美里町立高田中学校3年生
参加者：114名

11月16日(日) 県立福島工業高校美術部1～3年生
参加者：8名

11月26日(水) 本宮市立本宮まゆみ小学校5年生
参加者：52名

12月7日(日) 県立福島南高校美術部1～3年生
参加者：11名

5 美術館への年賀状展

県内の小・中学生から寄せられた手作り年賀状をエントランスホールに展示した。

会期：平成27年1月12日(月・祝)～31日(土)

応募数：小学生361枚、中学生110枚、

学年不明その他20枚 合計491枚

観覧者数：922名

6 博物館実習

学芸員資格取得のため実習を希望する大学生を受け入れ、カリキュラムを組んで指導している。

期間：平成26年8月19日(火)～24日(日)

実習生：5名

7 友の会、協力会との連携事業

(1) 友の会対象の鑑賞プログラム

ア 「ちひろ美術館コレクション展」鑑賞講座

日時：平成26年5月25日(土)

講師：堀 宜雄(当館主任学芸員) 参加者：15名

イ 「コレクションクッキング展」鑑賞講座

日時：平成26年9月15日(月・祝)

講師：荒木康子(当館専門学芸員) 参加者：10名

ウ 「小川千穂展」鑑賞講座

日時：平成26年11月15日(土)

講師：増渕鏡子(当館主任学芸員) 参加者：15名

エ 「飛騨の円空展」鑑賞講座

日時：平成27年2月28日(土)

講師：宮武 弘(当館主任学芸員) 参加者：15名

(2) 友の会美術映画鑑賞会

ア 「大いなる沈黙へ～グランド・シャルトルーズ修道院」

日時：平成26年9月20日(土)～2月28日(金)

会場：福島フォーラム

イ 「坑道の記憶～炭鉱絵師・山本作兵衛」

日時：平成26年11月15日(土)～2月28日(金)

会場：福島フォーラム

(3) 友の会実技講座

ア 「藍染め体験をしてみませんか」

日時：平成26年8月9日(土)

講師：(川俣町織物展示館指導員)

参加者：3名

イ 「スクラッチボードに描く」

日時：平成26年11月29日(土)

講師：久慈伸一(当館専門学芸員) 参加者：8名

(4) アートチャリティー・バザー

友の会会員、美術館関係者が持ち寄った図録・書籍・アート関連グッズ等を販売した。

日時：平成26年11月16日(日)

会場：エントランスホール

(5) 友の会研修旅行

「山形美術館、霞城セントラルランチ、寒河江・慈恩寺を訪ねる旅」

日時：平成26年8月23日(日)

参加者：早川博明(当館館長)、伊藤匡(当館学芸課長)、白木ゆう美(当館学芸員)ほか計42名

(6) ミュージアム・コンサート

福島県立美術館協会、福島県立美術館友の会との共同開催
ア 「開館30周年記念 夏の夕べのコンサート」

日時：平成26年7月26日(日)

会場：エントランスホール(参加無料)

演奏：小野宏子氏(フルート)、柴田菊子氏(ピアノ)

参加者：150名

イ 「琵琶と江戸手妻の会」

日時：平成27年2月14日(日)

会場：美術館講堂(参加無料)

出演：藤山新太郎氏(手妻)、藤山晃太郎氏(手妻)、塩高和之氏(薩摩琵琶)

参加者：250名

8 その他の事業

(1) 県立図書館との連携事業「アートな おはなしかい」

小学生とその保護者を対象にした、図書館での絵本の読み聞かせと、美術館での鑑賞および工作ワークショップ。

日時：平成26年12月21日(土)

参加者：19名(うち保護者8名)

(2) 地域に学ぶ中学生体験活動

期間：平成26年7月2日(水)～4日(金)

参加者：福島市立大鳥中学校2年生3名

第6節 施設・設備の整備

老朽化した施設・設備の改修工事等を実施した。

(1) 美術館・図書館空調設備等改修工事

平成26年12月11日～平成28年2月3日

文化・倉島特定建設工事共同企業体、株式会社高電

(2) 美術館ハロゲン化物消火設備改修工事

平成26年12月2日～平成27年3月20日

株式会社光和設備工業所

(3) 美術館災害復旧工事(建築配管設備)

平成26年3月27日～平成26年7月18日

株式会社光和設備工業所

